

コラム

多数の抗議に逃げ出したヘイトデモ

良識ある市民の批判の声をさらに大きく広く

小林 寿太郎

「ヘイトデモは許さない」「ともに生きよう」

7月16日は暑い1日だったが、私は朝から神奈川県川崎市の中野公園に出かけた。偶然見かけた「ヘイトスピーチを許さないかわさき市民ネットワーク」のチラシを読み、どうしても行かなければと思ったからだ。チラシは「『朝鮮人をぶち殺せ』などとわめきながら、目に余る差別的暴力的言動を繰り返してきた団体が中野公園を起点にヘイトデモを予告している。良識ある市民はこの言語道断の暴挙を阻止すること」を訴えていた。

中野公園でのヘイト集会は川崎市当局の英断で禁止されたが、デモの方は警察（形式的には神奈川県公安委員会）が許可していた。

ヘイトデモ開始は10時と予告されていたが、中野公園付近は9時前からヘイトデモを阻止するためおびたしい市民が集まりすごい熱気だった。神奈川県警も多数の機動隊を動員しており、平塚警察署などから臨時編成された部隊もあるようだった。

10時ころにはヘイトデモに抗議する市民はどんどん増えて周辺の歩道は完全に市民で埋まり、車道に向けて「ともに生きよう」「ヘイトデモは許さない」などの横断幕がはりめぐらされていた。

「かわさき市民ネットワーク」の代表からスピーチがあり、警察がヘイトデモを許可したのは許せない。私たち市民の力でヘイトデモを阻止しよう。絶対に阻止するという決意と覚悟を全員で確認しよう」と呼びかけた。

しかし、ヘイトデモはなかなか出現せず、市民たちの緊張もいくらか緩んでいるような気がしたが、11時ころになって中野公園から300メートルほど離れた路上で20人ほどがこそこそデモ

をしているとう急報がもたらされた。警察とヘイト連中が仕組んだ小細工であることはすぐに分かった。

市民たちは怒りの声をあげて、ヘイトデモの方へ一斉に走り出した。機動隊は市民たちの行動を何とか妨害しようとするが、市民たちは圧倒的な人数で妨害を振り切った。私も市民たちとともに走っていくと大勢の警官に防衛されて日の丸やら旭日旗を立てて歩く集団を発見した。近づくとも人相の悪い軍服を着た年輩の男たちだった。先頭付近に回った市民たちはヘイトデモの前方で次々に座り込み、警官と激しくもみ合っている。後方から追いついた市民は、ヘイト連中を防衛する警官に詰め寄り、ヘイト連中はもみくちゃにされている。

警官に守られて逃げ出す

警察じゃヘイト連中を防衛するのは不可能と見たらしい。ヘイト連中は激しく糾弾されながら警察の用意したバスに乗り込み逃走しようとした。しかし、そのバスも市民に包囲されており、逃げるのも苦労していた。

ヘイトデモがあまりにも早く逃走したので逃走後も市民たちは駆けつけていた。再び中野公園に集まり、国会議員の有田氏（有田芳生 参議院議員 民進党）などがスピーチでヘイトデモを阻止した意義を説明していた。

私はヘイトデモを発生させた日本の社会的、経済的、政治的混乱と不安定さはこれからも半分続くと思う。したがってヘイトデモはこれからも起きると見なければならぬ。ヘイトデモを阻止するためには良識ある市民の力をもっと大きく、もっと広く結集することが大切であると思う。